

第9回ひろしまジュニア国際フォーラムの開催結果について

1 要旨・目的

国内外の高校生等が国際平和についての討議や交流等を行い、平和のメッセージを世界に発信することを通じて、次の世代の人材育成を行うことを目的とした「第9回ひろしまジュニア国際フォーラム」を次のとおり開催した。日本を含む25か国の高校生が討議・交流等を行い、とりまとめた広島宣言を発表した。

2 現状・背景

平成28年度に第1回を開催し、今回は9回目の開催。

3 概要

- (1) 実施主体 広島県
 (2) 実施期間 令和6年8月14日（水）～18日（日）の5日間
 (3) 場 所 広島国際会議場等
 (4) 実施内容
 ア テーマ 平和な世界の実現に向け私たちができること
 （核兵器廃絶と復興・平和構築に向けた取組）
 イ 参加者 高校生 86名
 ○日本人高校生 46名（県外高校生11名を含む。）
 ○外国人高校生 40名（23か国）

[外国人高校生の招へい国]

(五十音順)

区分	国名	人数
海外から参加	アルメニア、 <u>イタリア</u> 、インドネシア(2)、ウズベキスタン、オマーン、 <u>韓国</u> 、カンボジア、タイ、 <u>中国</u> 、 <u>ドイツ</u> (2)、フィリピン、米国、ペルー(2)、ミャンマー、 <u>メキシコ</u>	18名
国内から参加 (留学生等)	アイスランド、アルゼンチン、イタリア、カナダ、スイス(3)、タイ、チリ、ドイツ、ニュージーランド(3)、フィンランド、フランス(2)、米国(4)、ミャンマー(2)	22名

※ 海外からの参加者のうち、中国、米国、メキシコ、韓国からの参加者（下線部）は、本県の友好提携先等である四川省、ハワイ州、グアナフアト州、慶尚北道からの招へい者。また、イタリア、ドイツからの参加者（波線部）は、G7広島サミットの成果を受け、G7各国に派遣した「若者たちのピース・キャラバン」において昨年度訪問した高校からの招へい者。

ウ スケジュール

日時	行事内容
8月14日（水）	オリエンテーション、基調講演、被爆体験証言聴講、チームビルディング、講義・グループディスカッション（核兵器廃絶）、歓迎交流会
8月15日（木）	講義・グループディスカッション（復興・平和構築）、広島宣言の草案作成
8月16日（金）	県内視察（平和記念資料館、宮島等）
8月17日（土）	広島宣言の確定、報告会準備
8月18日（日）	報告会（広島宣言の発表等）

(5) 広島宣言の内容等

広島宣言の内容は別紙仮訳のとおり。なお、同宣言は、国連や外務省等の国際関係機関等へ送付するとともに、県のSNS・ホームページ等で情報発信する。

(6) 予算

22,598千円

4 関連情報

<https://hiroshimaforpeace.com/hjif2024/hjif-declaration2024/>

(ひろしまジュニア国際フォーラム開催の様子)



基調講演



被爆体験証言聴講



チームビルディング



ディスカッション



グループ発表



広島宣言の作成作業



宮島訪問



国際・平和推進担当部長への広島宣言手交

ひろしまジュニア国際フォーラム 2024 広島宣言（日本語仮訳）

前文

私たち、24カ国からの参加者86名は、2024年8月14～18日に広島市で開催された第9回ひろしまジュニア国際フォーラムに集いました。本フォーラムの目的は、地球規模の問題に若者が参画することの重要性を強調し、平和を実現し、ポジティブな変革に影響を与えることにあります。

私たちはフォーラムに出席し、核兵器の歴史的背景、世界の形成に私たちが果たす役割について理解を深めました。核兵器の廃絶、暴力の影響、平和への障壁について学びました。被爆者の感動的な話に耳を傾け、核拡散は私たちだけでなく、世界の全ての人に関わる問題だと知る機会を得ました。今回のフォーラムは、核兵器廃絶に向けた独自の視点に導かれ、平和を志すコミュニティを生み出しました。学んだことを糧として、私たちは団結し、平和を希求し、ここに広島宣言を採択して平和な世界の創出に向けた第一歩を踏み出します。

このイベントを主催し、私たちに核兵器について教え、意見を共有するかけがえのない機会を提供していただいた広島県に心から感謝します。本フォーラムは平和構築における多文化理解の重要性、そして核兵器のない世界の追求の重要性に光を当てています。今こそ、私たちは平和が何よりも重んじられる世界の構築に向け、共に旅立つのです。

核廃絶に向けた課題と解決

不信感

私たちの認識では、非核化の大きな障壁は不信感にあります。他の核保有国も同じようにすると信頼できない状況で、問題視されている保有国がどうして核兵器を撤廃するのでしょうか。同じように、核保有国を信頼できず、その脅威にさらされることがないと思えない状況で、非保有国が核兵器を手に入れようとしめない理由もありません。不信感は基本的に、非核保有国が核兵器を獲得する動機を与えると同時に、核保有国が既にある核備蓄を維持する後押しになります。

私たちは、コミュニケーションを拡充することでこのような不信感を解消するように提案します。国際的な会議やフォーラムの開催を増やすことで、多様な国と文化圏の人々は相手について学びます。個人レベルの信頼構築は、コミュニティ、ひいては国家レベルの信頼構築の礎になるでしょう。さらに、相互への尊重が世界の全ての国の間に育まれるはずで、市民が積極的に協力するようになれば、やはり協力に意欲的なリーダーを選出することになります。これにより、信頼構築に欠かせない国家間の外交関係が築かれます。信頼を発展させるために直ちに行動することが、核兵器のない世界のために究極的にとても重要だと考えます。

共感の欠如

核兵器の廃絶という問題につながりを感じない人には、共感が欠けていると私たちは認識しています。多くの方は、核弾頭の撤廃は不可能な目標か、自分には影響のないことだと感じています。そのため、廃絶に向けて声を上げる気力を失い、政府や国際機関に核軍縮の実行を求める圧力も不足するのです。

私たちは、核兵器関連の犠牲者や危険性に関する世界規模の展示会の立ち上げを提案します。これにより、来場者の心情面にインパクトを与え、問題をよりリアルに感じさせることができます。大多数の人にとって、核兵器の恐怖を理解することは難しいものです。だれもが広島を訪問できるわけで

はないため、このような展示は知識へのアクセスを広げ、インスピレーションを与えるでしょう。もう1つの解決策は、大学がこれらの問題に関する講義や講演を一般に公開することです。それにより、問題について声をあげるように人々を励ますことができます。

力の不均衡

核保有国の間には、力の不均衡が認められます。核兵器の保有量は国によって大きく異なります。したがって、それぞれの核保有国が同じだけの量を削減すると、備蓄量の多い国に偏った利益をもたらす、備蓄量の少ない国を不利な立場にします。そのせいで、核兵器の備蓄量が少ない国は不安を覚えることになり、核軍縮を遂行するインセンティブが弱まるのです。

私たちは、全ての核保有国が均等な比率で核兵器を削減する核軍縮方式を提案します。例えば、核兵器5,000基を保有する国は500基、500基を保有する国は50基を放棄します。こうすれば、両国とも核備蓄の10%を放棄することになります。国家間の微妙なパワーバランスを崩すことなく、核軍縮の方式により特定の国に偏重した利益をもたらすこともありません。さらに、国連は核軍縮を進んで実行する国に対し、国家安全保障を確保するための軍事的保護を提供すべきでしょう。

核廃絶に向けた若者世代の役割

教育と理解

私たち若者世代は、核廃絶の理念を周囲に伝え、核兵器の恐ろしさを広めるために協力してもらう必要があります。このような考えを広めることで、一般市民や政府関係者は核兵器が極めて破壊的で壊滅的であることを十分理解できるようになります。その一例は、被爆者から原爆の悲劇についてもっと話を聞くことです。被爆者は高齢化によって少なくなり、なお悪いことに、当時を思い出せる被爆者は更に少ない状況です。皆さんが覚えていることを記録し、様々な言語に翻訳して、歴史と記憶を決して忘れられないようにする必要があります。また私たちは、相互理解と平和の重要性を周囲の人たちに伝え、チェンジメーカーになるように後押しします。

私たちは現代の若者として、世界の各国政府が主催する様々なプログラムを通じて、国際平和活動に参加すべきです。そのようなプログラムに参加する経済的な手段や能力がない場合でも、取組やイベントに貢献する私たちの価値や将来性は損なわれません。この重要で価値ある大義の一員になる真の資格は、私たちの情熱と献身によって与えられるのです。私たち若者世代は、様々な国の人たちとの文化交流を奨励し、理解を深めていきます。これは、核兵器とその影響力に関する物語や情報を広めると同時に、若者の間で対照的な意見や見解を共有する計り知れない助けとなるでしょう。

発信者になる

私たち若者世代はソーシャルメディアのプラットフォームで、英語だけでなく、様々な言語で考えを共有し、世界中にメッセージを広めていきます。具体的には、広告会社に働きかけ、核兵器廃絶のメッセージを広めることが可能です。被爆者が直面した悲劇をより多くの世界の人たちが思い描くことができれば、そのような悲劇を二度と起こしてはならないという認識をもつようになるはずです。

私たちのアイデアや考えを次の世代、そして上の世代に伝えることも重要です。詩を書いてソーシャルメディアで共有すれば、上の世代に影響を与えることができます。また、もっと若い世代には、英語圏だけでなく世界各国を網羅した多言語の絵本をつくることもできます。これらの手段は次世代に影響を与えるだけでなく、上の世代にアイデアを拡散することもできます。

核兵器廃絶に向けた広島役割

平和の象徴

広島には、核兵器による攻撃を受けた最初の都市として、平和の象徴であり続けることを期待します。広島は、自治体、大学、市民団体、そして市民が密接に連携し、まちづくりの構想として平和について考え、同時に平和と和解を提唱する場所です。平和とは核兵器も戦争もなく、食糧や資源、医療サービスの不足に苦しむ人たちがいないことだと、私たちは固く信じています。広島は、戦争と殺戮は終わりのない悲しみにつながるだけだと世界に思い起こさせる役割を果たせません。そして核兵器に反対する世界中の人たちの心を1つに結びつけるきっかけになるはずで、過去、現在、そして未来における広島の取組は全て、これまでも、そしてこれからも引き続き、世界の非核化に大きく貢献し、他の地域・国にとって重要な参考になることでしょう。

意識向上

私たちは、被爆者の驚くべき印象深い体験談を通じて人々の意識を高めることを広島に期待します。これは教師による講義だけでなく、他の国際的なリーダーと会合を開いたり、ソーシャルメディアを活用したり、マハトマ・ガンジーのような非暴力主義の指導者をヒントに平和的な抗議活動に参加したりすることによって実現できます。私たちは全員、それぞれに異なる意見があり、問題の解決にはコミュニケーションが重要であることを知っています。社会として成長するには、国際的なリーダーが集まり、問題を議論する必要があります。21世紀はテクノロジーが発達し、世界中の人が日常的にソーシャルメディアを利用しています。したがって、ソーシャルメディアを通じたメッセージの拡散はより効果的であり、より多くの人に届きます。しかし、抗議活動の平和的な性質は引き続き強調しなければいけません。平和的で非暴力的な抗議活動は、意識と理解を広めるための基本となる方法です。

物語の共有

広島には、核兵器廃絶のために自らの物語を世界に共有することを期待します。1945年8月6日、広島に投下された原爆は、忘れることのできない、そして忘れてはならない大きな悲劇です。原子爆弾のもたらした恐怖から、私たちは多くを学ぶことができます。原爆投下は直ちに大規模な死を引き起こしただけでなく、長年にわたって広島に住む住民に放射線の影響をもたらしました。物理的影響に加えて、被爆者の罪悪感や消えないトラウマといった精神的な副次的影響もあります。過去を繰り返さないためにも、私たちは広島の物語を共有しなければいけません。

より平和的な世界に向けた課題と解決

力と不均衡

私たちは、平和の実現を妨げている複数の課題を認識しています。その1つは、力の不均衡です。資源や経済機会の不平等な分配は、社会から疎外された集団に対する更なる剥奪につながり、そのような状況では権力者がしばしば弱者を搾取します。人種、ジェンダー、アイデンティティに基づく様々な形の差別は、このような分断を悪化させ、協力と相互尊重を妨げる社会の亀裂を生み出します。全ては恐怖と不信感を引き起こす権力による支配と結びついているため、これらの不公正に取り組まなければ、抑圧は続きます。

プロパガンダ

プロパガンダは、特にコマーシャル、テレビ番組、映画、ソーシャルメディアを通じ、様々な形で行われていると私たちは認識しています。あらゆる形式のメディアで日常生活に浸透しているため、気づくのは困難です。このようなプロパガンダは、批判的思考を妨げるだけでなく、政治イデオロギーや社会問題などの注目すべきテーマについて、個人やコミュニティが偏った視点を持つように仕向けます。これにより、異なる集団の間に敵意や不信が生まれ、平和な社会の基盤が損なわれます。私

私たちは各国政府に対し、メディアの自由を守るとともに、政府を否定的に描き出すものであっても、いかなる情報も検閲しないよう働きかけます。

解決策

より平和な世界を創造するために、上記の課題に対する可能な解決策として、私たちは次のように提案します。力の不均衡に対処するには、権威ある立場にある人たちは疎外された無力な人たちを搾取するのではなく、支援するために積極的に取り組まなければいけません。そのための1つの方法は、リソースと機会の公正な共有を保証することです。有害なプロパガンダの問題を解決するために、メディアリテラシーを促進し、若者世代を中心に対象を広げ、否定的なプロパガンダを判断し、それに対抗する方法を教育することを提案します。これは、定評のあるウェブサイトを利用して情報源を調べ、クロスチェックし、感情に左右されないことで実行できます。批判的に考える力をつけるだけでなく、オープンマインドを育み、多様な視点を受け入れることにもつながります。協力と理解を奨励することで、私たちはより平和で正しい社会に向けて一丸となって取り組むことができるのです。

平和な地域・社会を構築するための若者世代の役割

教育

私たち現代の若者は、大きな紛争が続くこの時代にあって、心から平和を願っています。平和を実現するために最も重要なことの1つは教育です。異なる経歴の人たちとコミュニケーションを図るには、将来的に教育の国際共通基準を導入するなど、異文化の歴史的な背景を学び、理解に努めなければいけません。周知のように、相互理解が妨げられると対立が起こります。将来の安定のために、私たちには世界について自分自身そして他者を教育する責任があります。

メディア

私たち若者世代は、この高度なテクノロジーの時代にあって、信頼できる事実に基づく情報を、政治的または個人的な偏向なしに投稿し、過去と現在のグローバルな問題について意識を広めていきます。これは、ソーシャルメディアのプラットフォームを通じ、原子爆弾の投下や広島復興などの出来事について話し合うことで実現できます。そうすることで、世界中の人たちに未来への希望をもたらせるでしょう。

政治

私たちは、全ての若者の固有の尊厳と、平和交渉などの政治の意思決定プロセスに参加し、声を上げる平等かつ不可侵の権利を改めて確認します。私たち現代の若者世代は、平和につながる政策転換を提唱し、変革のきっかけになるように努めます。そのため、立法議会で政治家と直接関わり、平和構築を主題として議論し、討論することを目指します。そうすることで、政治的な言説に影響を与え、議論の場に新鮮な視点をもたらしたいと考えます。

平和構築の推進に向けた広島への役割

平和記念都市としての広島

私たちは、現在において教育が将来に極めて重要だと認識しています。したがって、広島は独自の物語を伝える書籍を提供し、できるだけ多くの言語で読めるようにするとよいでしょう。さらに、広島県は現在、中国四川省、米国ハワイ州、メキシコ国グアナフアト州の3つの自治体と姉妹提携を結んでいます。世界各地の更に多くの都市・州との関わりを通じて広島の経験を広めるべきだと考えます。

この2つのアイデアは、若い世代を啓発すること、また新しい討論の場を設けて被爆者の証言の遺産を若い世代へ伝えることによって、全世界の教育を変革することができます。

未来に向けた国際仲介者としての広島

広島には、本フォーラムのようなイベントを開催することで、核兵器の廃絶に引き続き貢献することを期待します。若者が政治に必要な不可欠な役割を果たし、誰もが互いに議論し、認め合うことのできる未来へと、本フォーラムが私たちを導くことを期待します。そのような未来を実現するには、広島には必要な取組がまだ多くあります。広島は、教授や専門家を世界各地の教育機関に派遣し、連携を促進することができます。

広島は、人類の自己破壊的な性質を示す一例ですが、やり直しの機会、そして人びとが歴史と自らの過ちから学ぶという希望の象徴でもあります。

結語

私たち現代の若者は、社会をリードし、未来を形作る責任を担い、核兵器の廃絶と世界の平和構築の実現の先頭に立つことを誓います。この宣言は、その証となるものです。第9回ひろしまジュニア国際フォーラムの参加者として、私たちが取るべき最初の、そして最も重要な一歩は、私たち以降の世代、そしてより幅広い人たちに知識と経験を伝えていくことです。プレゼンテーション、スピーチ、ソーシャルメディアを通じ、一般市民にアクセスしやすく、アピールできる方法でこれを実行していきます。

私たちはここで強めた絆を通じ、世界の隅々をつなぐ架け橋となります。互いを理解することで、差別に終止符を打ちます。銃弾ではなく、言葉によって対立を解決します。将来のリーダーとして、国際交流イベントやキャンペーンの開催を継続し、その機会を世界の他の地域へ広げていきます。このようなイベントへの参加は、全ての人に平和な生活を送るための機会を拡大します。平和と人間の回復力の象徴である広島で、私たちはこの厳粛な誓いを立てます。

2024年8月18日